

急性期病院における MSW の自殺未遂者支援を考える ～A 病院の MSW へのグループインタビューから～

○江村宏子 佐藤理絵 遠藤卓馬 前嶋真理子

要旨

自殺者の増加は社会問題となっており、自殺対策として様々な政策や行政の取り組みがなされている。急性期病院においては救急救命が中心となり、短い入院期間の中で自殺未遂者に対する支援が十分に行えているとは言い難い。精神的なケアや生活の整え、家族支援の構築、地域での支援ネットワークづくりなどの関りが必要と感じるが、MSW として十分な関りができないまま終結するケースが多い。病院全体の支援システムや地域の関係機関との連携の必要性を感じている。自殺未遂者支援に対して MSW が抱える葛藤や不全能を明らかにし、解決にむけた道筋を検討したい。

1 目的

急性期病院（A 病院）における自殺未遂者支援の現状と課題を分析し、MSW が抱える葛藤や不全能を明らかにする。また、今後に向けて課題解決の方向性を検討する。

2 方法

2021 年 12 月 1 日に、3 名の A 病院 MSW に対し、自殺未遂者への支援について約 1 時間半のグループインタビューを実施し逐語記録を作成した。

逐語記録から「自殺未遂者支援の課題」「対応策」を抽出したデーターをコード化し、類似のコードをカテゴリー化した。

倫理的配慮；本研究は、富士市立中央病院倫理委員会の承認を得て実施している。

（2021 年 承認番号 267）

3 結果

分析の結果、MSW が動きにくさを感じる自殺未遂者支援の課題として、27 のコードと 13 のカテゴリーを抽出した。（表 1 参照）

また対応策として 13 の方法を抽出した。

4 考察

自殺未遂者は、大きな問題が無く退院できるため、院内の関心ごとになっておらず、支援システムが未確立で MSW の役割もあいまいなものとなっている。MSW は、使命感と専門職意識だけで関わっており、安定した支援となっていない。安定した支援をするためには、気持ちだけで左右されないようシステムが必要となる。

＜ 表 1 自殺未遂者支援の課題 ＞

カテゴリー	コード
社会資源の不足	精神科以外に繋ぐ先がない 診療上の評価がない
ネットワークが不十分	psw がいないと連絡しにくい
院内システムが未確立	院内のシステムが未確立 MSW 役割が不明確 システム構築への手掛かりが見つからない
未遂者支援への関心の薄さ	自殺未遂者支援の文化が醸成されていない 病院経営的なメリットになっていない
精神科の方針が不明確	精神的評価が不十分 精神科主導ではない 自殺未遂者ケースに対する精神科の考えが不明確
精神科の診療体制が不十分	精神科の診療体制が不十分
主治医単独の判断で決定	精神科の評価はなく主科の判断で決まる 主治医からの MSW 役割認識のあいまいさ
スタッフの関りの薄さ	スタッフとの温度差を感じる スタッフの意識がわからない MSW にすべて任せられる 精神科領域におけるスタッフの実践力不足
支援者不在	自殺未遂者の孤独
関係性の築きにくさ	入院直後の話せない状態
MSW の動きにくい環境	MSW だけの対応の限界 面接できないまま退院 あいまいなポジショニング
MSW の大きな負担感	大きな負担感
MSW の実践力不足	介入の根拠を示せない 追いついていない実践力 不十分な研修

5 まとめ

今研究を通して、実践の中で感じる葛藤、憤り、不全能を言語化し参加者で共有したことで気持ちを整え、多角的に考えることができた。自殺未遂者支援をしにくくしているものは何か、解決にむけてできることは何かを模索することができた。